

## 編集後記

2005年創刊の平成国際大学スポーツ科学研究所所報も、今回で10回目の発刊となった。あらためて時の流れの早さを感じる。小学生の頃の1年はものすごく長い時間を感じられたが、今では年に一度の所報の原稿締切日があつという間にやって来る。脳科学者の茂木健一郎氏によると、幼少期は日々新たな発見の連続でその度に脳に刺激が与えられるが、成長するにしたがい経験済みの事柄が多くなり、意識せずに毎日を過ごすようになるので、時間の経過を早く感じるらしい。

近年、スポーツを取り巻く環境は大きく変化している。2010年に「スポーツ立国戦略」、2011年に「スポーツ基本法」、2012年に「スポーツ基本計画」と次々にスポーツ関連の施策が策定され、2013年には2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の招致が決定した。そして、これらのスポーツ振興方策を具現化するため、昨年10月にスポーツ庁が設置された。本研究所も、これまで以上にスポーツを通じた健康増進、地域活性化に貢献する活動が期待されている。従来活動をより充実させていくとともに、新たな取り組みの準備を始めたところである。来年度は新たな発見が続けば、少し時間の流れが緩やかに感じられるかも知れない。

(高野千春)

投稿された論文に対して査読の労をとってくださったのは、以下の先生方です。記して謝意を表します。

上坂学（順天堂大学） 梶田美奈子（東京国際大学）

編集委員

久保潤二郎 西川誠太 高野千春